

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H24年度末現在)	進捗状況 (H25年度末現在)	地区振興計画	H25当初予算	H26当初予算	事業完結分
H24	1	副田	雇用促進住宅(立山)・市営住宅(立石)について	建築住宅課	<p>平成22年度に薩摩川内市公営住宅等長寿命化計画を策定した。この計画に基づき、入来地域には2ヶ所の雇用促進住宅があるが、このうち立石住宅近く入来宿舎については、政策空家住宅の指定をしてある立石市営住宅等3市営住宅の代替え住宅として位置付けており、雇用促進住宅を管理している「独立法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構」から譲渡を受け、市営住宅として運営していく計画である。</p> <p>厳しい財政事情もあるが、老朽化が進んでいる立石住宅の居住環境を考慮すると、なるべく早い時期に実現できるように検討してまいりたい。現在は機構と協議をしているところである。なお、市営の立石住宅については、雇用促進住宅を取得し、市営住宅として運営後に取り壊すことになると考えている。</p>	<p>平成22年度に薩摩川内市公営住宅等長寿命化計画を策定した際、入来宿舎の取り扱いは、地元のコミュニティ協議会の方々と協議した結果、購入する方針とした。</p> <p>入来の雇用促進住宅について、周辺の立石住宅・池原住宅・中須住宅の用途廃止等に伴う代替住宅として取得することとし、この方針に基づき、平成25年度の総合計画実施計画において、川内宿舎と入来宿舎の購入について予算化されたところである。</p> <p>今後、独立行政法人「高齢・障害・求職者雇用支援機構」との売買契約に関する協議を行い、全棟の1階と、2DKタイプの2階について住宅内部の改修を実施したうえで、平成26年4月から入居開始し、全棟の3階までについては、平成26年7月までに改修を終了し、8月以降の入居開始を計画している。</p> <p>4～5階については、入居状況を見ながら段階的に整備した上で、入居者募集を行っていくたい。</p>	<p>25年10月に購入の仮契約を締結し、議会の議決を受け、26年1月1日より市の所有となった。</p> <p>25年10月、立石住宅入居者に対し説明会を行い、移転の希望を聞いたところである。</p> <p>実際の住替えについては、内部改修完了後、8月を目途に案内する予定である。</p>				
H24	2	清色	「入来麓地区伝統的建造物群保存地区」を核とした地域活性化への取り組みについて	文化課	<p>合併以来、清色城跡と入来麓の一体となった整備を進めている。伝建地区では、文化庁の事業で実施した建物・石垣等の修理修景だけでなく、国土交通省の事業も活用して、景観等の整備を進めたい。全体的な整備には期間を要するので、平成22年度から、観光客等が歴史を学ぶなどとする、観光交流施設として、旧増田家住宅の整備をしている。トイレなども本年度中に完成する。旧増田家住宅では、屋敷の構造や産の映像などを紹介し、特産品等の販売を考えている。</p> <p>平成25年5月22日から3日間、伝建地区の国選定100周年と旧増田家竣工を記念して「第35回全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会」を本市で開催する。全国の伝建地区等から約300名が参加されるので、本市をPRしたい。従来、伝建地区保存会を中心とした活動であったが、この総会開催を機に、清色地区コミだけでなく、入来地域の5地区コミの協力をお願いし、10～11月に実行委員会を組織する中で、関係団体等と行政が一体となって、対応したい。伝建地区のみでなく、入来地域全体の起爆剤として再出発する機会としたい。</p>	<p>平成25年5月22日から24日にかけて開催される全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会について、実行員会を組織し、案内部会、おもてなし部会、観光サティセールズ部会の3部会を設け、地元関係者等を中心に内容を検討している。この総会・研修会について、入来5地区コミも参加しており、入来地域の起爆剤になるようにおみやげの新開発なども検討されている。</p> <p>この総会を機に旧増田家住宅を拠点施設として位置づけ、地域活性化へつなげていきたい。</p>					
H24	2	清色	「入来麓地区伝統的建造物群保存地区」を核とした地域活性化への取り組みについて	観光・シティセールス課	<p>5月に開催される全国伝統的建造物群保存地区協議会総会を機会ととらえ、実行委員会と連携し、入来伝建地区をはじめ入来町、薩摩川内市の「旅」、「食」、「品」を全国へ発信したい。本年度の伝建地区の具体的な取り組みとしては、県の事業を活用して、県内で武家屋敷のある出水市、南九州市、薩摩川内市の伝統的建造物群保存地区を売り出すポスター・パンフレットの作成や3市での広域スタンプラリーを企画している。来年度、旧増田部の完成に併せて、入来地区で「武家屋敷サミット」を予定。3市連携して地域の特色を生かした歴史リゾンを市内外へアピールしたい。</p> <p>観光協会では、市外・県外の旅行会社に、本市の旅行商品造成事業に取り組んでいる。薩摩川内市グリーン・ツーリズム推進協議会では、県外から修学旅行生の受け入れに積極的に取り組んでおられる。当入来地区においては、約200名の中・高校生が体験に訪れている。来年度は、旧増田部の完成に合わせて新たなコース設定などについて、ボランティア組織団体と検討してまいりたい。中世の遺を残す伝建地区を核とした歴史文化コースを観光の目玉として、地域の活性化を目指したい。</p>	<p>本年度は、県の事業を活用して、県内で武家屋敷のある出水市、南九州市、薩摩川内市の伝統的建造物群保存地区を売り出すポスター・パンフレットの作成や3市での広域スタンプラリーやモニターツアーを実施した。</p> <p>また、平成25年度は5月に開催される全国伝統的建造物群保存地区協議会総会を機会ととらえ、実行委員会と連携し、薩摩川内市の「旅」、「食」、「品」を全国へ発信したい。また、旧増田家公開住宅に併せて、入来地区で3市による「武家屋敷サミット」を開催し市内外へアピールしたい。</p>	<p>5月22日(水)に開催した全国伝統的建造物群保存地区協議会時に、観光物産協会、商工会、地区コミュニティ協議会等が特産品等を出展し販売を通して情報発信を行った。</p> <p>8月3日(土)、武家屋敷サミット2013を開催した。伝統的建造物群保存地区を保有する本市を核とし、南九州市、出水市の3市で武家屋敷群を中心とした広域的な観光を展開することを目的として、各市の取組み等の情報交換・共有を行った。</p> <p>また、県事業を活用し、3地区を巡るモニターツアーを3回実施した。さらに、3地区の周遊性をさらに高めるために、共同のリフレットを作成した。</p>				
H24	3	朝陽	林産物の利活用と地域活性化手法	林務水産課	<p>一般的に木質バイオマスという言い方をしているようであるが、今御指摘のあったペレット、チップ等については、森林の資源の有効活用という観点で、数年前から脚光を浴びてきている。</p> <p>聞くところによると、県の方でも今年の春に「木質バイオマス利用研究会」を立ち上げる動きがあるという報道があった。これは林業者だけでなく、行政、チップ業者もきめた研究会である。これは鹿児島県全体の木質バイオマスの実現に向けて研究を進めるというものであるが、未だに県の研究会も立ち上がっていない状況である。</p> <p>木質バイオマスについては、御指摘にもあったように、場合によっては雇用の拡大、森林資源の有効活用とが、鳥獣被害の防止等様々な効果が期待される。私共薩摩川内市においても、はっきり申し上げて、木質バイオマスの研究は進んでいないし、これからである。地元の方で、今回、取り組みたいところであるので、最初は情報の収集や提供等の形になるかもしれないが、一緒になって勉強・研究させていただければ大変ありがたいと考えている。</p>	<p>森林資源を活用した木質ペレット生産を柱とした事業内容で国庫補助事業の申請を行ったが不採択となった。</p> <p>今後も地域で検討していくのであれば市も参加させて頂き勉強させていただきたい。</p>					

入来地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H24年度末現在）	進捗状況（H25年度末現在）	地区振興計画	H25当初予算	H26当初予算	事業完了分			
H24	3	朝陽	<p>林産物の利活用と地域活性化手法</p> <p>昭和40年代初期までは、多くの林産物(杉・檜・雑木・竹・山菜等)が、利活用され、それらの植林・伐採・加工・販売等に従事し山間地域の生活を支えてきたが、需要・価格・経済等の変化により、現在では、タケノコ・孟宗竹のチップ・竹粉・竹酢及び木酢等の非常に少ない利活用で、しかも林業に従事者も極僅かである。</p> <p>従って、林産物の積極的な活用(利潤ある需要拡大)に取り組む事により、林業従事者の確保(過疎高齢者対策)山間地域の経済的効果さらには、鳥獣被害防止策にも成り得ると考える。</p> <p>例えば、木材燃料ペレット生産(自然エネルギー)等関係者検討を進めたいので、御支援をお願いするものである。</p>	農政課 林務水産課	<p>一般的に木質バイオマスという言い方をしているようであるが、今御指摘のあったペレット、チップ等については、森林の資源の有効活用という観点で、数年前から脚光を浴びてきている。</p> <p>聞くところによると、県の方でも今年の春に「木質バイオマス利用研究会」を立ち上げる動きがあるという報道があった。これは林業者だけでなく、行政、チップ業者もきめた研究会である。これは鹿児島県全体の木質バイオマスの実現に向けて研究を進めるというものであるが、未だに県の研究会も立ち上がっていない状況である。</p> <p>木質バイオマスについては、御指摘にもあったように、場合によっては雇用の拡大、森林資源の有効活用とか、鳥獣被害の防止等様々な効果が期待される。私共薩摩川内市においても、はっきり申し上げて、木質バイオマスの研究は進んでいないし、これからである。地元の方で、今回、取り組みたいとのことであるので、最初は情報の収集や提供等の形になるかもしれないが、一緒になって勉強・研究させていただければ大変有難いと考えている。</p>	未利用間伐・廃材を利用した木質ペレット等を主に熱利用とするバイオマス（生物性由来の有機資源）については、バイオマス活用推進基本計画第21条に係るバイオマス活用推進基本計画策定を鹿児島県はH24年1月に策定し、同年7月27日に「かごしま木質バイオマスエネルギー利用研究会」を立ち上げたところである。また、それに伴う県内の森林組合及びチップ業者を交えた原料供給協議会をH24年度中に3回実施計画の状況である。 <p>本市においては、「薩摩川内市次世代エネルギービジョン」を策定し、その中で、バイオマスについても、太陽光、風力、水力などと同様に、次世代エネルギーのひとつと位置づけている。</p> <p>今後、バイオマスについては、本市農林水産力の向上のなかで、様々な方策を研究していきたい。</p>	平成24年度で要望していた過疎集落等自立再生緊急対策事業は不採択になった。 <p>本年度は、市で講師依頼をし地域で木質エネルギーについての学習会を2回開催したところである。今後も地域からの要望があれば協力して参りたい。</p>							
H24	3	朝陽	<p>林産物の利活用と地域活性化手法</p> <p>昭和40年代初期までは、多くの林産物(杉・檜・雑木・竹・山菜等)が、利活用され、それらの植林・伐採・加工・販売等に従事し山間地域の生活を支えてきたが、需要・価格・経済等の変化により、現在では、タケノコ・孟宗竹のチップ・竹粉・竹酢及び木酢等の非常に少ない利活用で、しかも林業に従事者も極僅かである。</p> <p>従って、林産物の積極的な活用(利潤ある需要拡大)に取り組む事により、林業従事者の確保(過疎高齢者対策)山間地域の経済的効果さらには、鳥獣被害防止策にも成り得ると考える。</p> <p>例えば、木材燃料ペレット生産(自然エネルギー)等関係者検討を進めたいので、御支援をお願いするものである。</p>	新エネルギー対策課 林務水産課	<p>一般的に木質バイオマスという言い方をしているようであるが、今御指摘のあったペレット、チップ等については、森林の資源の有効活用という観点で、数年前から脚光を浴びてきている。</p> <p>聞くところによると、県の方でも今年の春に「木質バイオマス利用研究会」を立ち上げる動きがあるという報道があった。これは林業者だけでなく、行政、チップ業者もきめた研究会である。これは鹿児島県全体の木質バイオマスの実現に向けて研究を進めるというものであるが、未だに県の研究会も立ち上がっていない状況である。</p> <p>木質バイオマスについては、御指摘にもあったように、場合によっては雇用の拡大、森林資源の有効活用とか、鳥獣被害の防止等様々な効果が期待される。私共薩摩川内市においても、はっきり申し上げて、木質バイオマスの研究は進んでいないし、これからである。地元の方で、今回、取り組みたいとのことであるので、最初は情報の収集や提供等の形になるかもしれないが、一緒になって勉強・研究させていただければ大変有難いと考えている。</p>	平成24年度総務省補正予算の過疎集落等自立再生緊急対策事業補助を活用して、木質ペレット生産事業を実施すべく県へ事業計画書を提出し協議を行っているところである。 <p>なお、事業内容は、木質ペレットを製造する機械を導入して、間伐作業から製造・販売に至る雇用につなげ、併せて農産物・林産物の販売や体験交流を通じて地域活性化を図るものである。</p>	平成24年度で要望していた過疎集落等自立再生緊急対策事業は不採択になった。 <p>本年度は、市で講師依頼をし地域で木質エネルギーについての学習会を2回開催したところである。今後も地域からの要望があれば協力して参りたい。</p>							
H24	4	大馬越	コミュニティセンター改修について	コミュニティ課	<p>平成25年度に向けて、修繕必要箇所の照会を地区コミへお願いしているところである。ただし、予算にも限りがあることから、要望箇所の現場を担当職員が確認をした上で、危険性・緊急性・重要性等を勘案・決定し、対応してきており、48地区から多く寄せられる要望、全てに対して、また、単年度でお応えできていないことは、是非、御理解いただきたい。今回、この議題にある修繕必要箇所について、現場において、量の積み、バリアフリー（段差解消）の必要性等については、私の方でも直接確認させていただいている。</p> <p>なお、要望にあるトイレのウォッシュレット化に関しては、本庁・8支所及び48の地区コミュニティセンターの全てにおいて、設置できていないので、この点については、今後の公共施設における検討課題とさせていただきます。</p>	回答と同様	回答と同様							
H24	4	大馬越	コミュニティセンター改修について	農政課	<p>農政課所管の加工施設は市内に全部で8箇所ある。各施設、加工機器ともに老朽化により、使用に支障がある場合、使用頻度、安全性等を考慮しながら、施設・器具機器の修繕、また、新規購入を行っている。</p> <p>大馬越農村研修館では、平成24年度足踏式土冠打機機の買換えの外、今年度平成24年度は、みぞ加工機に向けて準備中である。いずれにしても、今回議題としていただいた内容については、改めて現場を確認の上、緊急性・必要性、そして全体予算を勘案して、対応させていただきたい。また、実施する場合も先程も申し上げたとおり、複数年かけて実施していくこともあるので、この点を是非御理解いただきたい。</p>	加工施設、加工機器の改修については全体予算の中で必要性・緊急性を勘案して対応していきたい。	加工施設、加工機器の改修については全体予算の中で、緊急性・必要性を勘案して対応していきたい。							

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H24年度末現在）	進捗状況（H25年度末現在）	地区振興計画	H25当初予算	H26当初予算	事業完結分
H24	5	八重	市道八重線の突角除去工事	建設整備課 建設維持課	<p>市道八重線については、国道328号と八重地区を結ぶ路線であるが、説明文にもあるように、道路幅員も狭くカーブも多いことから、養鶏農場等への飼料等を搬入や製品の搬出する大型車輛等との兼ねに大変苦労されていると考えている。</p> <p>今回、4箇所の突角除去工事の要望を出していただき、私も現地を確認させていただいた。このうち、優先順位①の箇所については、現地を見ると、カーブ進入時から急に狭くなっており、非常に危険な箇所であると思われる。従って、地権者方の同意が得られれば、実施に向けて年度内に測量設計ができればと考えている。</p> <p>また、他の3箇所につきましては、最低限でも視距ができるように、例えば、突角部分の地山の切り取りや削り、立木（杉が生えているが）の伐採等に対応できないか。いずれにしても、同意等が必要のため、地権者の方々を含め、関係者の方々と調整をさせていただきたいと考えている。従って、地区コミュニティ協議会の皆様方にも御協力をよろしくお願いしたい。</p>	草波側1箇所については、測量設計を実施。	測量設計済の1箇所の工事を実施した。				
H24	その他	八重	竹林事業の助成について	林務水産課	検討したい	H25年度で予算計上済			○		○
H24	その他	副田	将来的に、「あぜろ湯」、「柴垣湯」という大きな施設ができるわけであるが、これらについても、今と同じような考えでおられるのか。それとも、このような良い設備を作っていたらいいわけであるが、別個の独立した指定管理制度を考えてもらえるのか。	水道管理課 上水道課	<p>現在、どのように作って、今の「あぜろ湯」、「柴垣湯」の形態をどのように活かしていくかを検討、設計を今後進めていくことをやっている。また、最終的に利用料金等を含めたもので、出来上がっていない。このようなものが、まとまった段階で、対応の仕方、直営であるのか、指定管理者であるのかの経営形態まで含めて検討させていただきたい。</p>	回答概要に同じ	<p>新公衆浴場の建設については、地区役員との協議を行い、また、地区説明会も開催し、地区の意見を十分取り入れ、地区の同意を得た上の設計とした。</p> <p>管理方法については、通常指定管理者による管理で対応するところであるが、新設施設であることから、当分の間は、市直営で運営することで検討している。</p>			○	